

# 経済マンスリー [原油]

## 引き続きイラン情勢が最大の注目材料

原油価格 (WTI 期近物) は、2 月中旬以降、イラン情勢緊迫化や米原油在庫減少、米雇用および住宅関連指標の改善を受けて上昇ペースが加速し、2 月 24 日には 109 ドル台と昨年 5 月以来の高値に上昇した。3 月に入り、イラン情勢やギリシャ債務交換、米国や中国の経済指標が強弱それぞれの材料となり、106 ドルを挟んでもみ合う展開が続いている。

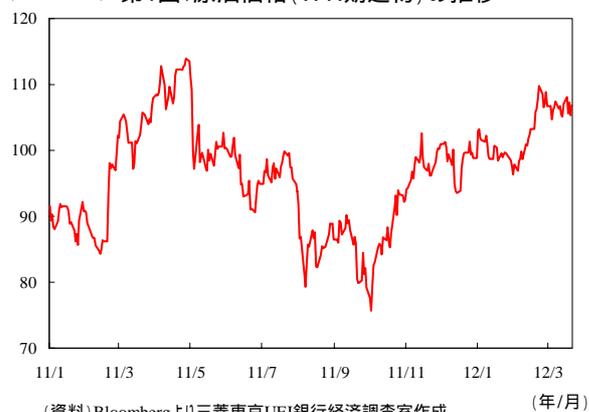
足元の原油価格を見る上で最大の注目材料は、イラン情勢の緊迫化や同国向け制裁強化に伴う供給減少である。核開発疑惑を巡り、イランと欧米諸国との間で緊張が高まっており、米国が昨年 12 月末に対イラン経済制裁を強化したのに続き、1 月には欧州連合 (EU) がイラン産原油の輸入禁止について正式決定し、7 月から全面禁輸に踏み切ることとなった。

イランの産油量は昨年 12 月以降、減少が続いており、2 月には日量 338 万バレルと 10 年振りの低水準となった (第 2 図)。この背景には、禁輸を控え、既に欧州諸国が輸入を削減していることがあるとみられる。

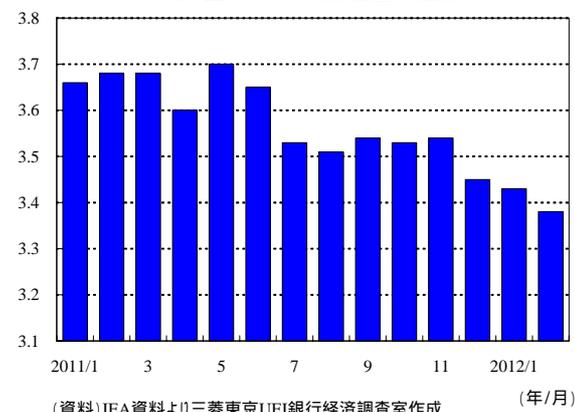
一方、サウジアラビアの産油量は 1,000 万バレルと、30 年振りの高水準に達している。昨年リビアが内戦状態に陥り、大幅減産を余儀なくされた際には、サウジアラビアは UAE とクウェートとともに増産してリビア減産分を補ってきた。内戦終結を受けてリビアの生産は回復しているが、対イラン制裁に伴う供給懸念が高まっていることから、サウジアラビアは増産基調を維持している模様だ。

この結果、石油輸出国機構 (OPEC) の生産量は増加しており、供給不足は生じていないとみられる。ただし、増産に伴う生産余力低下が供給懸念の高まりにつながり、原油価格を押し上げる可能性には留意する必要がある。

(ドル/バレル) 第1図: 原油価格 (WTI期近物) の推移



(百万バレル/日) 第2図: イランの産油量の推移



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 矢口 満 mitsuru\_yaguchi@mufg.jp  
篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページ <http://www.bk.mufg.jp/>でもご覧いただけます。